

コンプライアンスシリーズ

— 全社教育用カスタマイズ対応コンテンツ —

● **コンプライアンスなど制度の徹底に最適なeラーニング教材**
 企業内のルール周知や企業戦略の徹底など、全社員教育に適したeラーニング教材です。

● **カスタマイズでより実用的に**

NECラーニング製教材をもとに、自社の体制や制度に沿った学習内容、テストにカスタマイズすることで、全社教育用の教材を、短期間に準備することができます。SCORM1.2仕様、またはhtml形式にてご提供いたします。

内部統制入門



すべての方を対象に、内部統制が何故必要かを学びます。

※英文版、中国語簡体版も
 ございます。

IT統制入門



すべての方を対象に、COBITやITILがIT統制とどう関係するかなど、基礎を学習します。

コンプライアンス入門



ケーススタディを中心に、コンプライアンスの考え方について基礎を幅広く学習します。

※「セクハラのない明るい職場づくりのために」
 もございます。

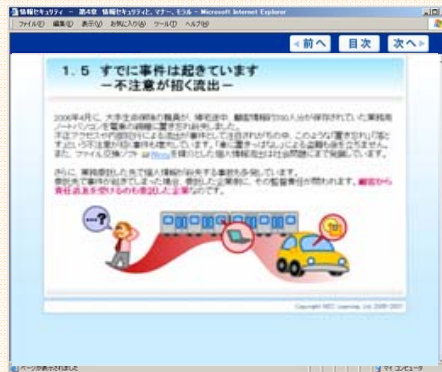
情報セキュリティ



ウイルス対策や情報漏えい防止など、パソコン利用時の基礎を学習します。

※2年目向け短縮版
 「なっ得！情報セキュリティ」も
 ございます。

個人情報保護



お客様の氏名や住所の扱いなど、個人情報保護の基礎を学習します。

※業種別(金融、医療、製薬、
 住宅、学校)もございます。

環境マネジメント



環境に対する企業を取り巻く状況と法制度の動向を学習します。

■内部統制入門-日本版SOX法対応-

(標準学習時間:1時間)

はじめにお読みください

- ◎コース概要
- ◎幹部メッセージ

1章 日本版SOX法の概要と内部統制

- 1.1 SOX法が必要な背景
- 1.2 内部統制とは
- 1.3 内部統制の4つの目的
- 1.4 内部統制の6つの基本的要素
- 1.5 内部統制のフレームワーク
- 1.6 米国SOX法と日本版SOX法の主な相違点
- 1.7 財務報告の精度向上のために
- 1.8 内部統制強化に向けた我が国の
法制度動向

- 1.9 日本版SOX法対応で企業がすべきこと
確認テスト

2章 現在の内部統制をチェックする

- 2.1 現在の内部統制をチェックする
- 2.2 統制環境
- 2.3 リスクの評価と対応
- 2.4 統制活動
- 2.5 情報と伝達
- 2.6 モニタリング
- 2.7 ITへの対応
確認テスト

3章 内部統制整備の手順と評価

- 3.1 内部統制整備の手順と評価
- 3.2 準備・計画／方針策定
- 3.3 構築 - 業務フロー -
- 3.4 構築
- 業務記述書・リスクコントロールマトリクス -
- 3.5 運用・評価
- 3.6 内部統制の監査
確認テスト

4章 例で見る内部統制

- ◎4.1 海山商事グループの内部統制強化
- ◎4.2 プロジェクトチーム体制
- ◎4.3 全社計画
- 4.4 誰が何をすればいいの？
- 4.5 何を文書化するの？
- 4.6 重要なのは業務の可視化
- 4.7 プロセスを分割し、サブプロセスに分けよう
- 4.8 サブプロセスを業務フローで表そう
- 4.9 リスクコントロールマトリクスを作ろう
- 4.10 リスクの評価と対応
- 4.11 他の部門では
- 4.12 さあ、作業を開始しましょう
確認テスト

※日本版SOX法を翻訳した、
英語版・中国語簡体版もございます。

■IT統制入門-日本版SOX法対応-

(標準学習時間:1時間)

はじめにお読みください

- ◎コース概要
- ◎幹部メッセージ

1章 イントロダクション -内部統制とは-

- 1.1 企業におけるSOX法対応とは
- 1.2 内部統制が求められる背景
- 1.3 内部統制が法制化された経緯
- 1.4 内部統制と罰則規定
- 1.5 内部統制のフレームワーク
- 1.6 内部統制にITは欠かせない
- 1.7 「ITへの対応」とは
確認テスト

2章 IT統制強化プロセス概要

- 2.1 IT統制のカテゴリ
- 2.2 IT統制強化プロセス概要
- 2.3 内部統制の方針策定
- 2.4 IT全般統制
- 2.5 IT業務処理統制
確認テスト

3章 日本版SOX法とCOBIT、 ITILの関係

- 3.1 COBITのフレームワーク
- 3.2 COBITの4つの領域と34のITプロセス
- 3.3 COBIT、ITILの関係
- 3.4 ITILの構成
- 3.5 ITILの構成要素
- 3.6 COBITとITILのマッピング
確認テスト

4章 IT統制の整備手順と評価

- 4.1 整備の手順と評価
- 4.2 準備・計画フェーズ／方針策定フェーズ
- 4.3 情報システム部門の役割
- 4.4 構築フェーズ -IT全般統制の文書化-
- 4.5 IT全般統制のリスクコントロールマトリクス
- 4.6 構築フェーズ
- 4.7 運用・評価フェーズ
- 4.8 IT統制の監査
確認テスト

5章 例で見るIT統制

- ◎5.1 海山商事グループのIT統制
- ◎5.2 プロジェクトチーム体制
- ◎5.3 全社計画
- 5.4 IT統制は誰がやるの？
- 5.5 どんな文書で管理されているの？
- 5.6 ITのメリットとリスクを理解する
- 5.7 業務部門では
- 5.8 情報システム部門では
- 5.9 内部統制はいつまでも・
確認テスト

■コンプライアンス入門

(標準学習時間:1時間)

はじめにお読みください

- ◎コース概要
- ◎幹部メッセージ

1章 企業倫理・コンプライアンスの必要性

- 1.1 企業倫理・コンプライアンスを
取り巻く社会環境
- 1.2 企業倫理・コンプライアンスとは
- 1.3 企業倫理・コンプライアンスを
実践することの意義
確認テスト

2章 社会との関係

- 2.1 環境保全
- 2.2 政治資金・寄付行為
- 2.3 反社会的行為への関与の禁止
確認テスト

3章 顧客、取引先、競争会社等との関係

- 3.1 製品・サービスの安全性
- 3.2 自由な競争および公正な取引
- 3.3 購入先・協力先との取引
- 3.4 接待・贈答
- 3.5 輸出入の取り扱い
- 3.6 宣伝・広告
確認テスト

4章 株主・投資家との関係

- 4.1 企業情報の発信
- 4.2 インサイダー取引の禁止
確認テスト

5章 会社財産・情報の管理

- 5.1 会社財産の管理および適正使用
- 5.2 情報管理
- 5.3 個人情報情報の取り扱い
- 5.4 守秘義務
- 5.5 知的財産の保護
確認テスト

6章 健全な人間関係

- 6.1 働きやすい職場環境
- 6.2 企業人としてのマナー
確認テスト

7章 コンプライアンス徹底のために

- ◎7.1 コンプライアンス推進体制
- ◎7.2 社内規程の整備・運用
- ◎7.3 おかしいと思ったら
確認テスト

総合テスト

■情報セキュリティ

(標準学習時間:1時間)

はじめにお読みください

- ◎コース概要
- ◎幹部メッセージ

1章 情報セキュリティとは

- 1.1 情報を取り巻く危険性
 - 1.2 情報漏えいの事件・事故
 - 1.3 実際にあった被害ーウイルス感染ー
 - 1.4 実際にあった被害ー改ざんー情報流出ー
 - 1.5 実際にあった被害ー内部犯行ー
 - 1.6 情報セキュリティの考え方
- 確認テスト

2章 ウイルスの脅威

- 2.1 ウイルスとは
 - 2.2 最近のウイルス
 - 2.3 ウイルスの予防と対策
 - 2.4 最新のウイルス対策ソフトに更新する
 - 2.5 eメールからの感染に注意する
 - 2.6 組織で認定されたソフトウェアしかインストールしない
 - 2.7 外部から持ち込む記録媒体やファイルは必ずウイルスチェックを行う
 - 2.8 万が一感染したら・・・
- 確認テスト

3章 不正アクセスと情報漏えい

- 3.1 不正アクセスとは
 - 3.2 絶えない内部犯行
 - 3.3 予防と対策
 - 3.4 ユーザIDの管理を行う
 - 3.5 アクセス権限の管理を行う
 - 3.6 パスワードの管理を行う
 - 3.7 必要なセキュリティパッチを早急に適用する
 - 3.8 重要なデータは暗号化する
 - 3.9 情報を適切な場所で管理する
- 確認テスト

4章 情報セキュリティとマナー・モラル

- 4.1 気付かずに流出する情報
 - 4.2 情報の利用
 - 4.3 情報の保管
 - 4.4 情報の廃棄
 - 4.5 情報セキュリティに関わるeメールマナー
 - 4.6 日常の会話にも注意
 - 4.7 離席時の注意
 - 4.8 Webサイトのマナー
 - 4.9 携帯電話のセキュリティ
 - 4.10 使ってよい情報、使ってはいけない情報
- 確認テスト

5章 情報セキュリティを確実にするために

- 5.1 情報は資産
- 5.2 情報セキュリティに関する法律
- 5.3 情報セキュリティに関する規格・制度
- 5.4 職場リーダの役割
- 5.5 組織の対応と個人の意識

<6章追加>

6章 当社のセキュリティへの取り組み

- ◎6.1 当社のセキュリティ管理体制
- ◎6.2 社内規程
- ◎6.3 問い合わせ先

■個人情報保護

(標準学習時間:1時間)

はじめにお読みください

- ◎コース概要
- ◎幹部メッセージ

基礎編

1章 個人情報保護の重要性

- 1.1 個人情報保護を取り巻く社会の動き
- 1.2 こんな体験したことありませんか？
- 1.3 誰がプライバシーを守りますか？
- 1.4 すでに事件は起きていますー相次ぐ流出ー
- 1.5 すでに事件は起きていますー不注意が招く流出ー
- 1.6 あなたの職場のイケナイ管理
- 1.7 個人情報とビジネス効果
- 1.8 取り扱いに関する4つの原則

2章 個人情報の種類

- 2.1 一般的な個人情報
 - 2.2 通信・インターネットを利用したサービス業
 - 2.3 製造・卸・小売
 - 2.4 病院・薬局
 - 2.5 官公庁
 - 2.6 金融
 - 2.7 保険
 - 2.8 学校・塾
 - 2.9 個人情報ではないものー企業・団体の情報ー
 - 2.10 個人情報ではないものー個人を特定しない情報ー
 - 2.11 グレーゾーン
- 基礎編 確認テスト

事例編

3章 企業に求められるもの

- 3.1 流出する原因を取り除く
- 3.2 流出させないための対策
- 3.3 集め方にはルールがあるー取得ー
- 3.4 情報は預かりものー管理ー
- 3.5 目的を定めた情報の利用ー利用ー
- 3.6 本人からの請求に応えるー開示ー
- 3.7 最後まで続く責任ー廃棄ー
- 3.8 きちんと管理、正しく運用

4章 例でみる個人情報管理体制

- 4.1 海山商事はこんな会社です
 - ◎4.2 海山商事での個人情報保護のしくみ(1)
 - ◎4.3 海山商事での個人情報保護のしくみ(2)
 - ◎4.4 海山商事での個人情報保護のしくみ(3)
 - 4.5 ステップ1 DMを出したい
 - 4.6 ステップ2 社内の顧客リストが使えるか確認する
 - 4.7 ステップ3 希望データを入手するための許可を得る
 - 4.8 ステップ4 使用後の顧客リストの処分
 - 4.9 ステップ5 顧客から情報の訂正要求がきた
 - 4.10 海山商事の管理体制から学ぶ
- 事例編 確認テスト

管理編

5章 保護されるべき個人情報

- 5.1 個人情報は保護されるべきもの
- 5.2 個人情報保護法への経緯
- 5.3 OECD8原則
- 5.4 誰が責任を負うのか
- 5.5 個人情報の範囲
- 5.6 法律が示す企業の義務
- 5.7 法律を理解した上での、企業の取り組み

6章 意識を高める認証制度

- 6.1 企業の自主性が問われる
 - 6.2 第三者機関による認証制度
 - 6.3 適切な機関を選択する
 - 6.4 認証の取得状況
 - 6.5 認証を取得すると一人のメリットー
 - 6.6 認証を取得すると一人の企業のメリットー
 - 6.7 ルールの運用と浸透
 - 6.8 申請ー取得では終わらない
- 管理編 確認テスト

※個人情報保護は、業種別(金融、医療、製薬、住宅、学校)もご紹介します。

■環境マネジメント

(標準学習時間:2時間)

はじめにお読みください

- ◎コース概要
- ◎幹部メッセージ

1章 地球環境問題のキーワード

- 1.1 今地球で何が起きているか
 - 1.2 『地球人』に求められている環境対策
 - 1.3 環境問題(1) 地球温暖化
 - 1.4 環境問題(2) 廃棄物
 - 1.5 環境問題(3) オゾン層の破壊
 - 1.6 環境問題(4) 酸性雨
 - 1.7 環境問題(5) 水質・土壌汚染
 - 1.8 環境問題(6) 環境ホルモン
 - 1.9 環境問題(7) アスベスト
 - 1.10 人間社会における物質循環
 - 1.11 京都議定書の発効
 - 1.12 京都議定書に対する主要各国の取り組み状況
 - 1.13 持続可能な社会の実現は可能か？
- 確認テスト

2章 企業を取り巻く環境問題と制度

- 2.1 社会が企業に求めていること
 - 2.2 代表的な環境関連法規
 - 2.3 環境基本法
 - 2.4 循環型社会形成推進基本法
 - 2.5 改正廃棄物処理法・資源有効利用促進法
 - 2.6 容器包装リサイクル法・家電リサイクル法
 - 2.7 食品リサイクル法・建設リサイクル法
 - 2.8 自動車リサイクル法・グリーン購入法
 - 2.9 地球温暖化対策推進法・省エネ法
 - 2.10 環境教育推進法・環境配慮活動促進法
 - 2.11 最近の欧州・アジアの環境規制動向
 - 2.12 環境活動の潮流とキーワード
 - 2.13 環境配慮型製品・サービス
 - 2.14 エコファント・SRIFアンドとは？
- 確認テスト

3章 ISO14001

- 3.1 ISO14001規格制定の背景
 - 3.2 持続性を実現する
 - 3.3 ISO14001とは？
 - 3.4 ISO14001を取得する意義
 - 3.5 環境マネジメントシステム(EMS)の構成
 - 3.6 環境マネジメントシステム(EMS)導入のメリット
 - 3.7 取得企業のまわりでは
 - 3.8 ISO14001及びISO9001取得状況
 - 3.9 認証取得に向けて整備すること
 - 3.10 「認証は取ったけれど」にしないためのEMS構築
 - 3.11 環境マネジメントシステムをどう生かすか
 - 3.12 ISO14001電子化の動き
- 確認テスト

4章 サンカク弁当における環境管理体制

- 4.1 サンカク弁当はこんなお弁当屋さんです
 - 4.2 サンカク弁当の社内制度
 - 4.3 サンカク弁当の社内体制
 - 4.4 サンカク弁当の社内手続き
 - 4.5 事例A お弁当の容器を変えたい
 - 4.6 (A-1)運用ルールにのっとった申請
 - 4.7 (A-2)テスト
 - 4.8 (A-3)手配・通達
 - 4.9 事例B お弁当の売り方を変えたい
 - 4.10 (B-1)企画する
 - 4.11 (B-2)運用ルールにのっとった申請
 - 4.12 (B-3)条件を調査
 - 4.13 (B-4)経営会議で審議
 - 4.14 (B-5)販売テスト
- 確認テスト

5章 当社の環境への取り組み

- ◎5.1 当社を取り巻く環境動向
- ◎5.2 当社の環境方針
- ◎5.3 当社の環境体制

★個人から数十人規模でのeラーニングを実施したいお客様(配信サービス含む)

■ eラーニングコース・オプションのご利用案内

価格は税込価格()内は本体価格)です。

eラーニングコースは、当社Webサイトからお申込みただただけで、インターネットを利用して学習できるコースです。

■ eラーニングコース受講料 (本リーフレットに掲載されているコンテンツ)

1カ月、1人あたりの受講料	¥4,935 (4,700)
---------------	----------------

※大人数でまとめてお申込のお客様は、eラーニングコース・オプションをご利用されると便利です。

オプションのご利用で、お客様専用のコース開催や一括した受講者の進捗管理・成績管理が可能です。
eラーニングコース・オプションの基本料金は、人数分のeラーニングコース受講料の他に初期費用がかかります。
利用人数に応じた割引サービスもございますので、初期費用やeラーニングコース・オプションについて詳しいことは、
下記に記載のお問合せ先までお気軽にご連絡ください。

※コンテンツカスタマイズについて

・本リーフレットでご紹介したコンテンツは、カスタマイズに対応しております。ご利用の場合、別途、制作期間およびカスタマイズ費用がかかります。

★すでにLMSがお決まりで、コンテンツのみをご利用したいお客様

■ コンテンツ利用のみのご利用案内 (html形式 または SCORM1.2形式)

価格は税込価格()内は本体価格)です。
eラーニングシステム利用料は含みません。

お客様が利用されている学習管理システム(LMS: Learning Management System)で使用できるかたちにて、
コンテンツをご提供いたします。

■ コンテンツ基本料金 (1コンテンツあたりの利用料 + コンテンツカスタマイズ費※)

	利用期間・利用人数	html形式	SCORM1.2形式
		(html および 目次とテスト問題のExcel)	
1コンテンツの利用料 + コンテンツ カスタマイズ費 (5ページ以内)※	3ヶ月・100名	¥735,000 (700,000)	¥945,000 (900,000)
	3ヶ月・500名	¥1,050,000 (1,000,000)	¥1,260,000 (1,200,000)
	1年間・人数無制限	¥1,260,000 (1,200,000)	¥1,470,000 (1,400,000)
コンテンツ追加カスタマイズ費	+10ページ(計15ページ)以内のコンテンツ追加・変更	¥525,000 (500,000)	
	+15ページ(計20ページ)以内のコンテンツ追加・変更	¥630,000 (600,000)	

※コンテンツのカスタマイズについて

- ・内部統制入門、IT統制入門、コンプライアンス入門、情報セキュリティ、個人情報保護、環境マネジメントより、いずれか一つをお選びください。
ナレーション・Flashアニメーションを含むコンテンツのご利用には、Flashプラグイン8以上が必要です。
- ・各コンテンツの目次(◎の付いたページ)、5ページ以内のコンテンツ変更を基本料金にて行います。
◎以外のページのカスタマイズは、追加オプション費用が適用されます。
- ・英文・中文翻訳、ナレーションカスタマイズ、アニメーション作成を含む場合は、別途お見積りいたします。

※SCORM1.2形式をご利用になられる際の確認事項

- ・提供いたします確認チェックシートに基づいて、お客様のLMSで動作確認をお願いいたします。
- ・imsmanifest.xml の記述に関して指定があればご指示ください。

★コンテンツのカスタマイズをご希望するお客様

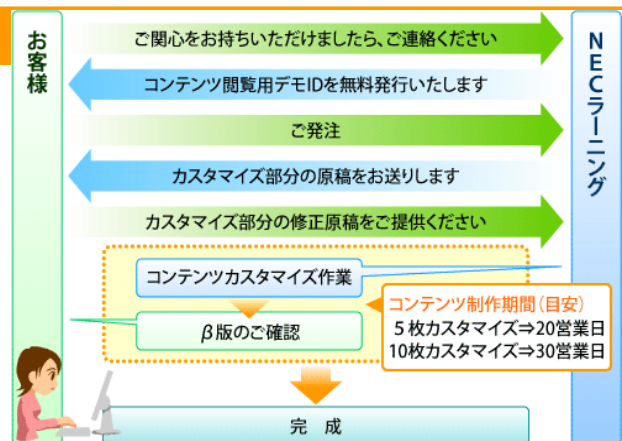
■ コンテンツカスタマイズ時の制作スケジュール(例)

■ カスタマイズスケジュール

カスタマイズ対応コンテンツ制作の流れは、右図のようになっています。カスタマイズの内容により、コンテンツ制作にかかる期間は異なりますので、予めご了承ください。
また、教育の実施にあたっては、コンテンツの完成から学習開始までの準備期間をご予定ください。
(当社の場合、2週間ほどを見込んでおります。)

※コンテンツ制作期間・カスタマイズ費用について

基本料金の範囲を超えるカスタマイズにつきましては、
別途、スケジュール等を含めお見積りをいたします。
下記に記載のお問合せ先までお気軽にご連絡ください。



お問い合わせ

NECラーニング株式会社

〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目17番12号 (吾妻ビル)
TEL : 03-5232-3059 FAX : 03-5232-3070
Email : custom@educ.jp.nec.com URL : http://www.neclearning.jp/

★このカタログに掲載の製品名、会社名は各社の商標または登録商標です。
★このカタログの内容は改良のため予告なしに仕様・デザインを変更することがあります。
ご了承ください。